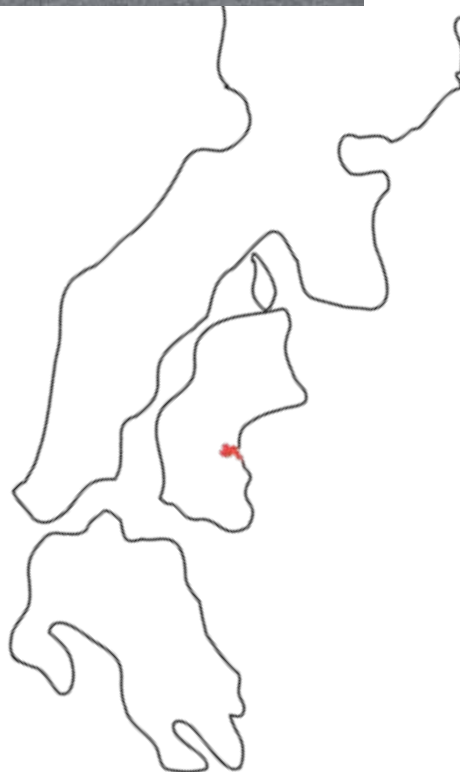




私たちが ここで暮らす理由



高知県 中土佐町

≫ 中土佐町で暮らす人たち ≪



≫ 魚屋でWebデザイナーの母
P.4

田舎的マルチワーカー ≪
P.2



≫ 波も仕事も乗りこなす役場職員
P.6



≫ 中土佐育ちの中学1年生
P.8

地元を守るZ世代の消防士 ≪
P.10



お山を世界一陽気にする農家 ≪
P.12



≫ 地域の居間を作る社協職員
P.14

地元密着型料理人 ≪
P.16



≫ 町と一緒に子どもを育てる保育士
P.18

数字では測れない暮らしの距離感



高知——四国の南側約半分を占める、太平洋に面した県。海岸線を西へたどると、高知市街から車でおよそ50分のところに、中土佐町がある。人口約五千人。太平洋の波が打ち寄せる漁師町と、四万十川の源流域に広がる山里が、ひとつの町に共存している。海側には久礼・上ノ加江・矢井賀の三地区、山側には田園の広がる大野見地区。それぞれに異なる風土と暮らしがある。

波乗りにも人生を賭ける人に、獣を捌き、暮らしそのものを仕事をしている人、元の仕事に誇りをもつて向き合う人。それぞれが選んでいるのは、自分だけの「距離感」だ。人と人との距離、海と山との距離、仕事と生活との距離。その近さの中に、ここで暮らす人の「ここで暮らす理由」が詰まっている。

田舎的マルチワーカー

猟師 / バス運転手 / 革細工職人

出身：高知県 中土佐町

上ノ加江エリア在住12年目

木村 司さん

高校卒業後、兵庫県の鉄鋼会社に勤務し、24歳で中土佐町上ノ加江へUターン。現在はスクールバス運転手として働く傍ら、狩猟と革細工に取り組み、前職で培った溶接技術も生かしたクラフト製品を高知オーガニックマーケットなどで販売している。二児の父。

山に夢中になり、 山から暮らしをもらう。

好きなことを続けるための働き方



— 普段は、どんな仕事をしているんですか？

平日は、スクールバスの運転手をしています。朝と夕方に子どもたちを送迎して、日中は自由な時間。その間に好きな仕事ができる。毎月コンスタントな収入があることは、生活の安心にもつながっています。狩猟をしている自分にとっては、めっちゃちょうどいいバランスやと思います。

鉄鋼会社を辞め、自然を相手に自分で仕事を始めたのが30歳のとき。

今は狩猟と革細工を中心に、高知オーガニックマーケットへの出店と、平日のスクールバスの運転が生活の軸になっています。

スクールバスの仕事を始めてから、いろんなバランスが取れてきました。一つでも安定した生業があるから、狩猟もものづくりも、思う存分、向き合えるようになった気がします。



小さい頃から、自然に触れるのが当たり前やったんですよ。海も好きやけど、山のほうが獣との駆け引きや知恵比べがあって楽しい。鉄パイプ一本で山に入るのは命がけやけど、獲れたときは「勝ったな」という気持ちになります。鉄鋼会社を辞めるとき、収入が減る不安はもちろんありました。自然を相手に生業をつくる毎日は、不安ばかりで精神的にしんどい時期もありました。でも「高知オーガニックマーケット」に出店するようになって、少しずつリズムができましたね。自分で獲った肉をジャーキーにして買ってくれるお客さんができたり、出店者さんから野菜を分けてもらったり。家で

は卵も採っています。

金銭的というより、物理的に「食べられる」ようになった実感が大きな変化でした。食が安定すると、あまりお金を使わなくても何とかなる。安心が生まれると、やりたいこともどんどん出てくる。

その中の一つが、革細工です。命をできるだけ無駄にしたくないから、自分で獲った野生動物の皮で財布やブックカバーを作っています。最近は、鹿の角でペーパーナイフを作ったり、骨でピアスを作ることもあります。狩猟も革細工もYouTubeを見ながら学びました。

一つに絞らず、いくつかの生業で回していく。そういう暮らしが、気持ちいいですね。



魚屋でWebデザイナーの母

鮮魚店スタッフ/ Webデザイナー

出身：高知県 中土佐町

久礼エリア在住26年目

大崎 由花子さん

1993年生まれ。高校卒業後、自衛隊に入隊。結婚、子育てを機に家族で地元・中土佐町久礼にUターン。夫は単身赴任のため、二児の子育てをしながらマルチワークをこなす。

母でも、田舎でも、仕事に挑戦できる場所

県内外のカツオ好きが足を運ぶ「田中鮮魚店」。毎朝、町内の市場から仕入れた魚を店先に並べ、併設の食堂では好みの魚を定食で味わう観光客がひっきりなしに訪れる。

ここで働く大崎由花子さんは、店から徒歩5秒の場所で育った、生粋の久礼育ちだ。「スタッフが老若男女、本当にバラバラなんです。年功序列も余計な気遣いもないのに、人間味がある。だから楽しく働けるんだと思います」

夫が単身赴任中のため、二児の子育てはほぼ一人で担う。それでも昨年、Webデザインの仕事を始めた。

「子どもとの時間は削りたくなくて。家にいながら手に職をつけたいと、ずっと思っていたので」隙間を見つけては、デザインソフトの使い方を覚え、コーディングを学んだ。学びの場となったのは、高知県が主催する「中土佐町デジタル人材育成事業」。現在、中土佐町内の5人の女性が受講している。

17時まで鮮魚店、帰宅後は家事と育児をこなし、子どもが寝た21時からの3時間がWebデザインの時間だ。役場職員、建築会社、福祉施設——依頼の幅は少しずつ広がっている。

『主婦だから』『田舎だから』と諦める必要はない。由花子さんの挑戦が、そう教えてくれる。



10 Questions

ローカルの生活を覗く10の質問

家から一番近いコンビニは？何分かかる？

車で3分くらい！

今、冷蔵庫に人からもらったものある？

ある！デカイ塊のハム

スーパーで一番よく買うものは？

ビールとワイン…
そして辛いラーメン

友達とダラダラ喋る時、どこにいる？

だいたい我が家

初めて中土佐町にくる友達、どこに連れていく？

ふるさと海岸と大正町市場

小学校の時、同級生は何人いた？

35人くらい

つい出してしまう口癖は？

何卒 何卒

とある休日の過ごし方を教えて！

掃除して公園へ、そして昼からビール

「それな」って土佐弁で言うとなんて言う？

そえよ

「ワンチャン」って土佐弁で言うとなんて言う？

なんて言うがやろう…
いっぺん？笑



波も仕事も乗りこなす役場職員

中土佐町役場職員

出身：高知県 安芸市

久礼エリア在住22年目

小松 賢介さん

1975年生まれ。商社勤務を経て、バックパッカー旅やオーストラリアでのワーキングホリデーを経験。サーフィンをきっかけに中土佐町へ移住し、現在は中土佐町役場建設課の課長を務める。中学生と高校生の父。

—役場の仕事ってどんな仕事ですか？

町の人が暮らしやすく、住んでることを誇りに思えるような仕事をする事かな。

—例えば、どういうことですか？

過去にやってきたのは、老朽化した空き家を壊す補助金の強化かな。沿岸部の漁師町は小さいエリアに家が立ち並んでいるんよね。もし地震が来て建物が潰れると、道が塞がれて逃げ道がなくなってしまう。

その対策として、老朽化した空き家については、もともとあった解体の補助金を手厚くして、特に避難に必要な道沿いの空き家を、一定期間内だとほぼ無料で壊せる制度を作ったんだよね。

—なるほど。

空き地であれば、新たに建物を建てて跡地利用もできるやんか。そういう新しい施策を発案するところから携わって、町を良くしていけるのは、公務員の面白さでもあると思う。

—そもそもなんで中土佐町の役場職員に？

元々は、新卒で商社に入ったものの、自分の好きなサーフィンとか、キャンプや釣りに行きたくても、レジャーに行くまでに時間もお金もかかるわけよね。

だったら、自分の好きなことも仕事も同じエリアでしたいと思って辿り着いたのが、この町だったんよ。

—どういう人が役場で働くのに向いてますか？

多分一番大事なのは、町が好きかどうかということやと思う。町も仕事も数多ある中で、中土佐町が好きだから来たんよ。自分が好きな町を暮らしやすくするのは、自分の生活にも還元されるやんか。だから、好きな町のために仕事をするのが気持ちいいよね。



釣りも波乗りも 仕事も子育ても 諦めないでいい理由。

—仕事とサーフィンって、どう両立してるんですか？

業務に余裕があるときは、自分で仕事を調整すれば、波乗りや釣りにも行ける。台風も1週間前には予測できるやん。だから10日前くらいから仕事を前倒して、午前だけ休むとか、夕方2時間だけ抜けることもできるよ。

—そんな柔軟に休みが取れるんですか？

突発対応がない限りね。サーフィンや釣りをする人間には、すごくありがたい働き方やね。夕方、4時に仕事終わるようにしたら、日没まで3時間できたりするやんか。役場から海まで、車で5分かかからない距離感だからこそできるんよね。

—日頃の仕事ぶりやと、周りとの信頼関係があってこそですね。

段取りと信頼の積み重ねがあってこそやね。その柔軟さがあるから、仕事も遊びも手を抜かずにおれるかな。短い時間でも、自分のやりたいことができるし、子どもにも「釣り行く？」って気軽に声をかけられる。波があればサーフィン、ない時は釣り、ここにおったら遊びは尽きないよね。

—公私共に理解の幅があるって、すごくいい職場ですね。

部下にも、やりたいことがあるなら仕事を段取りして休んでほしいと思ってる。長い目で見ると、それが回り回って、仕事にも還元されると思うからね。



中土佐育ちの中学1年生

学生

出身：高知県 中土佐町

久礼エリア在住14年目

中土佐町の中学生に聞いてみた。 中学校生活って どんな感じ？



池田 奏愛(そうあ)さん

2012年生まれ。中土佐町久礼出身、久礼育ち。父、母、現在中学3年生の姉と4人暮らし。現役中学1年生。

Q.朝は何時に起きる？通学は怎么样して行ってる？

ー朝6時半頃。スクールバスを使っている人もいるけど、家が町のはずれにあるので、母に送ってもらってます。

Q.クラスは何人？

ー20人。男子7人、女子13人。

Q.部活は入ってる？

ーはい！バレー部です。週5日の練習があるので毎日部活漬けです。他には、バスケット部、吹奏楽部、サッカー部、野球部があります。

Q.どの授業が好き？

ー総合の授業です。農業体験とか漁業体験ができる。大野見のトマト農家さんへトマト狩りに行ったり、漁師さんの船に乗ってカニ釣りに連れていってもらったり。その体験をまとめて発表するのが楽しいです。

Q.給食で好きなメニューは？

ーカツオ飯とターキーコロッケが好き。

Q.友達関係ってどんな感じ？

ークラスメイトの多くは、保育園から一緒に過ごしてきたから、兄弟みたいな感じの距離感。良いところも悪いところも知り尽くしているみたいな感じ。

Q.やりたいことはある？

ー夏休みにカナダ・バンクーバーへの留学制度が中学校にあって、それにいきたい。抽選だから行けるかわからないけど、普段の生活ではできない経験をできたら嬉しいです。



お母さんにも聞いてみた。 中土佐町で 子育てをすること

いま中学3年の長女が保育園に入る前は、高知市内で子育てをしていました。マンション暮らしで、困ったときに誰に頼ればいいのかわからない不安がありました。

中土佐町では、学校の規模も町の規模も小さい分、地域の人たちが自然と見守ってくれている感覚があります。先生も顔見知りの方が多く、気になることがあればすぐ相談できる距離感がある。それが安心につながっています。

町に高校はないので、多くの子どもは車で、隣町や高知市内の高校へ通います。市内までは片道1時間かかるのですが、通学補助もあり、4分の3(月額2万円が上限)を負担してくれるので助かります。



母・ちひろさん

久礼出身。2人の子どもを持つ。高知市内で長女の育児を経験。奏愛さんの出産と同時に中土佐町にUターン。現在は、夫といちご農家を営む。



中土佐町では どんな給食を食べているの？



この日のメニューは、七面鳥ミンチのカレーに、トマトときゅうりのピクルス、デザートは文旦(主な食材は全て町内産)。町内産で旬の食材を中心に仕入れを行い、栄養教諭が献立を考えている。生徒が、地元生産者と食を通して繋がることができるのも、小さな町ならではの魅力だ。

地元を守るZ世代の消防士

消防士

出身：高知県 中土佐町

久礼エリア在住26年目

山崎 虎之介さん

1999年生まれ。中土佐町久礼出身。高校卒業後、専門学校に進学のうち、高輪消防組合中土佐分署に就職。現在、勤続6年目。

「適切に知って適切に行動」が安心を作る

中土佐町役場のすぐ下にある消防署で働く山崎虎之介さんは、中土佐町久礼出身。高校卒業後、公務員を目指して専門学校に進み、7年前に中土佐町消防署へ採用された。署員20人が3チーム体制を組み、3日に1度の24時間勤務で出動に備えている。

出動がない日の主な業務は、救助や火災を想定した各種訓練、消防器具の点検、避難訓練、潜水訓練など多岐にわたる。出動の多くは、高齢者の体調不良やけが、熱中症などによる救急要請で、1回の勤務中に2～3件対応することもある。

標高300mを超える大野見地区への出動では、狭い道や坂道を進む必要があるため、地域住民で構成された消防団との連携も必須だ。

海に面した町でもあるため、水難事故に備えた潜水訓練も欠かせない。また、地震による津波を想定した避難訓練は町内の学校でも実施される。日頃の避難経路や行動の確認が「適切に怖がり、適切に行動」を可能にする。

「お世話になっている人や、この町の役に立てるのが、一番のやりがいです」

現場経験を重ね、できることが増えていく実感とともに、下の世代の育成も期待されている。苦楽をともにする上司とともに、今日も町の安心を作っている。

10 Questions

ローカルの生活を覗く10の質問

通勤、何分かかる？

車で2分

家から一番近いコンビニは？何分かかる？

久礼のファミマ。これも車で2分ぐらい

スーパーで一番よく買うものは？

コーヒー（BOSSのブラック）

Amazon（通販）頼んだら、いつ届く？

物によるけど1日か2日くらい？

1年の中で好きな瞬間は？

冬になりかけの、半袖じゃ肌寒くなってきた時期の夕暮れ

とある休日の過ごし方を教えて！

愛犬・テン（2歳♂）とランニングからの散歩。テンは、日中はずーっと寝て過ごしゆう。この日は、珍しく自分のそばに来て寝てました^^

好きな匂いは？

一日天日干した布団の匂い

一番好きな「お酒のアテ」は何？

居酒屋「敷田」のオクラわさび漬けがオススメです^^

冷蔵庫に今、人からもらったもの入ってる？それは何？

家の前の市場で八百屋やりゆうおんちゃんからもらったみかん

「〇〇しか勝たん」って土佐弁で言うとなんて言う？

〇〇しか勝たんちゃ！！



お山を世界一陽気にする農家

農家/内装屋/ごみ収集業 etc.

出身：高知県 高知市

大野見エリア在住12年目

下村 具裕さん

1973年生まれ。16歳で内装職人に弟子入り。22歳で独立。その後、内装業の傍らBARの運営や遊び場作りに没頭。40歳で実家のある中土佐町大野見へ家族で移住。妻と中学生の娘と3人で暮らす。

この町を楽しみ尽くす10の仕事と遊び



「遊んでいるのか、
仕事しているのかわからない」
20代、内装屋として独立した頃から
そう言われてきた。
実際、この暮らしは
「いかに生活を遊べるか」
そんなワクワクで溢れている。

あそび

スティールパン

2022年、大野見のスティールパンバンド「Oh!No!!Me!!!」を発足。スティールパンは、トリニダード・トバゴでドラム缶から生まれた楽器。チームは20人ほど、町外からも集まり、週に一度の練習に励んでいる。県内のイベント出演依頼も増えてきている。



サーフィン

今は、めっきり回数が減ってしまったけど、長年楽しんでいるサーフィンも大事な遊びの一つ。中土佐町には、良い波の立つサーフスポットがいくつかある。海まで30分、慣れてしまえばあっといって気分転換になる。

カメラ

星空も天の川も虫もとにかく綺麗だからカメラを持ち出して撮影することもしばしば。「80歳の地元のおじいちゃんがカメラを趣味にしている、あと30年も遊べると思うと、楽しみなよね」

よさこい

8月は、よさこいで踊り狂う！仲間が作ったよさこいチーム『CANAVARAVA』は、伝統的な高知よさこいに、トリニダード・トバゴのカリビアンなエッセンスを融合したチーム。ブルーベリーの農繁期とよさこい期間が被るという致命的な悩みを抱えている。



生姜

下村農園の二大生産物の一つ、生姜。仲間の作った有機肥料を使い、農薬不使用で育てた生姜は香り高い。オンライン販売のほか、シロップやホットソースへの加工も行い、農園の商品として販売している。



内装

元々は、内装業が本職。12年前、農家に転身してからも月1回の頻度で内装の仕事を受けている。「町内に空き家が多いから、リフォームの依頼が多い」という。



ブルーベリー

生姜と並ぶ二大生産物の一つ、ブルーベリー。生だけでなく、ジャムとしても販売している。加工作業は主に妻・由佳子さんが担う。近年は、観光農園としてもお客さんを受け入れている。



ごみ収集

「体も心も太らないための仕事」と話すごみ収集の仕事は、週3日、朝8時から始まる。自らDIYしたミニト色の軽トラを走らせる。午前中で業務を終え、午後は野良仕事や内装業に励む。



イベント開催

「こんな田舎にいて、楽しいことをしないと意味ないやんか」とよく口にする。その言葉通り、近隣の宿泊施設の野外スペースを利用して「River Side Holiday」を主宰。年に一度、山奥でカリブ音楽やゴスペルが鳴り響き、県内の変ったお店が集まる。



ゆず

仲間の畑で収穫させてもらっているという柚子。消毒や農薬を使用せずに自然栽培で育った柚子は、収穫すると農業用コンテナ20箱に及ぶ。全て農園の加工場にて絞りきり、農園特製のホットソースの「Oh!No!!Me!!!」やブルーベリージャムといった加工品に使われる。

しごと

地域の居間を作る社協職員

社会福祉協議会職員

出身：高知県 中土佐町

大野見エリア在住26年目

正岡 千沙さん

1998年生まれ。中土佐町大野見出身。高校卒業後、岡山の製鉄会社に就職。「大好きな地元で暮らしたい」と、19歳で中土佐町にUターン。中土佐町役場で勤務ののち、社会福祉協議会へ就職した。

山で暮らす人の「穏やかなインフラ」となる場所

中土佐町の山里エリア・中土佐町大野見。この地区の中心部に、社会福祉協議会の運営する「ほのぼの大野見」がある。

一歩中に入ると、ご老人の賑やかな話し声が館内に響いている。かといって、ここが高齢者施設かと言われると、そうではない。

「ここは、誰が来てもいい場所なんです。赤ちゃんから子供、学生から高齢者まで、誰でも自由に何をしても良い場所」

そう話すのは、正岡千沙さん。中土佐町大野見出身。高校卒業後、岡山で働いたのち、Uターン。現在は、正岡さんを含めたスタッフ2名で、「ほのぼの大野見」を運営している。

来てくれた人が楽しめるようにプログラム

を考えるのも業務のうち。毎月一回カラオケ大会をしたり、地域の方が作るランチをみんなで食べたり、保育園の子ども達が発表会をすることも。

「地域のコミュニティバスを使って、来られる高齢者の方も多いいですね」

高齢利用者の9割が一人暮らしだという。ここにきたら人と話し、繋がることができる。文字通り「憩いの場」であり、いわばこの町の「穏やかなインフラ」でもある。

「大野見のおばあちゃんおじいちゃんは、本当にいろんなことを知ってる。野菜の育て方とか、料理とか。取るに足らないことでも、生活の知恵が詰まっちゃう。だから、面白いんです」



10 Questions

ローカルの生活を覗く10の質問

家から一番近いコンビニは？何分かかる？

車で20分くらいかかる！🚗📍

コンビニで一番よく買うものは？

カフェオレ

小学校の時、同級生は何人いた？

16人！（当時大野見小学校で一番多かった）

Amazon（通販）頼んだら、いつ届く？

翌日に届けてくれよう！📦

虫は好き？

大嫌い！😱 大野見で唯一の我慢ポイントです、

とある休日の過ごし方を教えて！

出かける日はワークショップに行っちゃうことが多かった～ワイヤーアートが好きで検索しまくって行った！2時間作り放題で作ったワイヤーアートは家に飾ってます！



一人になりたい時や落ち込んだ時はどこに行く？

一人になりたい時がない！笑 極力誰かとおりたい！

冷蔵庫に今、人からもらったもの入ってる？それは何？

白菜とキャベツが入っちゃう！地域の方によく頂いて常に貰い物があります、ありがたい

友達とダラダラ喋る時、どこにいる？

お互いの家がイオン！

カメラロールにあるこの町の一番好きな景色は？

ネコと向日葵畑！



地元密着型の料理人

料理人

出身：滋賀県

久礼エリア在住18年目

服部 淳司さん

1976年生まれ。大学時代、飲食店のアルバイトがきっかけで料理人を志し、京都の飲食店に就職。そこで、妻・起子さんと出会い、32歳の時に嫁ターンで中土佐町久礼に移住。

人口5千人のまちで13年、愛され続けるお店を作る



なぜ地元のお客さんにこだわるのか

中土佐町唯一のスーパーマーケット「マルナカ」。その裏路地に、凛としたたたずまいで迎えてくれるのが、創作和食の居酒屋「おもや」だ。



地元で愛されて13年。来店するお客さんの約9割が地元の人だという。

店主は、服部淳司（あつし）さん・起子（ゆきこ）さんのご夫妻。2012年、京都の飲食店で修行中に出会ったお二人は、起子さんの地元・中土佐町に店を構えた。

（以下、敬称略）

起子:お客さんのほとんどは、町内か隣町から来られます。リピーターさんが多いです。

ーリピーターさんや地元の人が多いと、逆にプレッシャーじゃないですか？

淳司:何回も来てくれるからこそ、ちょっとしたサプライズをしたくなったりするんですよ。たまに違う料理を出したりとか。いつも楽しみに来てくれる、その期待に答えたい。

起子:いつも食べに来てくださる皆さんが大好きで。そのお客さんが美味しい思

いをしてくれるように迎えるのが、一番のやりがいだし楽しいですね。

ーじっくり築いてゆく関係性の中で、コミュニケーションとしての料理を作られているんですね。

淳司:お客さんとの距離だけでなく、生産者さんや食材との距離も同じで。毎日、自分で直売所を回って仕入れをしているんです。「この人の大根がみずみずしいから、この料理にしよう」とか「こんなにいいサバがあるから、今日はフライじゃなくてシメサバにしよう」とか。それが何より楽しくて。

ー食材が起点になって、料理が生まれていくんですね。

淳司:だから、定番のランチ定食は日替わりにしてる部分もあるんですよ。小鉢1つにしる、美味しいものを出したいから。



起子:中学生と小学生の子供がいる私たちにとって、自然や人との距離が近いのもありがたいですね。休みの日に少し運転したら綺麗な四万十川が流れていたり、車で数分のところには海があって釣りができるんです。

ー共働きだからこそ、この町の距離感がお店にも子育てにも生きているんですね。

ここには、あなたの暮らす理由が きっとある



調べる

中土佐町移住ポータルサイトでは、
求人情報をはじめ、空き家のこと、
子育て支援制度のこと、
移住体験プログラムのことまで
掲載しています。
その他、「移住者インタビュー」では、
実際に中土佐町で暮らす先輩移住者の声も
ご覧いただけます。

中土佐町移住ポータルサイト



問い合わせる

中土佐町 移住相談窓口
(合同会社なかとさLIFE)

〒789-1301
高知県高岡郡中土佐町久礼6368
TEL.0889-59-1800

中土佐町役場 まちづくり課

〒789-1301
高知県高岡郡中土佐町久礼6663-1
TEL.0889-52-2365

中土佐町 移住相談窓口の
公式インスタグラム



いかがでしたか？
ここでご紹介したのは、特別な生活を
送っている9人ではありません。
取材中、何度も「こんな話で大丈夫で
すか？」と聞かれました。でも、彼ら
の話すさりげない言葉の中にこそ、こ
の町で暮らす理由が詰まっていたよう
に思います。
冷蔵庫に入っているお隣さんからの
裾分け。仕事と生活の境界線の曖昧さ。
歩けば聴こえる海のさざなみ。給食の
カツお飯のおいしさ。数字では測れな
いものが、ここでの暮らしを豊かにし
ているのかもしれない。
あなたの「ここで暮らす理由」は、ま
だ見つかっていなくていい。この町に
来て、探してみてください。

2026年3月 初版第1刷発行

発行 中土佐町役場 まちづくり課
〒789-1301
高知県高岡郡中土佐町久礼6663-1

企画・制作 鈴木弥也子

